

「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 杵築 開催概要

[開催日：令和5年10月19日(木)]

[学校訪問] 杵築市立宗近中学校

[訪問者] 大分県教育委員会（岡本教育長、教育委員、教育次長 他）
杵築市教育委員会（清末教育長、学校教育課長 他）

1. 学校の概要説明

杵築市立宗近中学校では、「夢実現 地域を愛し協働して学び続ける生徒の育成」を学校の教育目標とし、特に基礎学力とコミュニケーション能力の育成に重点を置いて取り組んでいる。

また、平成29年度から教職員と生徒が一体となり授業を創り上げるために「全員参加のメリハリのある授業」「集中し、粘り強く課題に取り組む授業」「学び合い、広がりや深まりのある授業」という「授業共創宣言」を掲げ、学びに向かう学校づくりを進めている。「授業共創宣言」を踏まえ、生徒会執行部が中心となり、発表推進キャンペーンや自主的行動週間、学習ステーションの開設・運営等の活動が自発的に行なわれ、教職員とともに充実した授業づくりが進められている。

教員は授業力向上等を目指し、研究主任を中心とし「個人レポート発表会」「学級担任研修」「若手教職員研修」等の研修を行い、人材育成を図っている。特に、「個人レポート発表会」は、年間5回の互見授業の中から最も良かった授業や人に紹介したい授業を1つのレポートにまとめ、発表を行うものであり、1年間の成果と課題が整理されるとともに、効果的な取組となっている。



宗近中 小野校長

2. 授業参観

授業では、どの生徒にも確かな学力を身に付けさせるための学力向上システムの構築を目指し、ICT機器等の活用による「わかりづらさの解消」を重点的取組に掲げ、毎時間一度はICT機器を用いて個の困りやつまずきに応じた手立てを講じるなど、支援の充実を図る取組を組織的に進めている。



◇タブレットを活用したペア・グループ協議の様子



◇プロジェクターを使用した実技説明の様子

3. 授業参観後の意見交換会（主な意見）

- ▶どの授業も生徒が活発に質疑応答しておりよかった。また、生徒たちがタブレットを十分に使いこなしているところも見ていただいた。教職員・生徒のICT活用スキルが高いことが伺えた。
- ▶生徒の発表する声が大きく、間違っても大丈夫だという雰囲気があった。このような雰囲気での授業が行われていることが、生徒の学力向上につながっていると実感した。生徒とともに創る授業づくりのノウハウを、他の学校や市町村にも共有してほしい。

[意見交換会テーマ]「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上
～若年期を中心とした人材育成について～

[出席者] 学校訪問参加者、杵築市教育委員、
杵築市立小・中学校長（小学校3校、中学校2校）
授業力向上アドバイザー

1. 杵築市の取組説明

○授業力向上アドバイザーの効果的活用

令和2年度から授業力向上アドバイザーを小学校・中学校に1名ずつ配置している。若年期教職員の人材育成に欠かせない役割を担っている。主に経験年数2・3年目の教職員への指導・支援に携わっている。配置する際に最も重要視しているのは人選である。中学校でも幅広い教科を指導できる方、多様な知見・経験を有する方を選んでいる。主な業務として、対象教職員の参観授業や学級経営等への指導・助言、授業サポートや児童生徒への個別指導等を行っている。また、授業観察記録等を作成し対象教職員や管理職等と共有している。対象教職員においては、スキルアップを実感できていると肯定的な評価を得ているところである。学校長からの要望に応じて対象者以外の教員に対しても授業の指導・助言や授業以外の課題の解決に向けた助言を行う等、教職員全体の授業力等の向上にも貢献している。

○各学校での人材育成に向けた取組

若年期を中心とした人材育成を図るため、「対話」を重視(風通しが良く相談しやすい職場づくり、職員室の机配置の工夫等)、若手教職員を講師としたICT(タブレット)研修、互見授業の還流等を目的とした「レポート発表会」の実施、達成感や満足感を醸成する管理職からの助言・サポート等、各学校で工夫した取組が行われている。

2. 意見交換(主な意見)

- ▶若手教員が児童生徒に対して授業や日常生活でどのように指導をしていくかを教えるのが管理職の仕事だと思う。自分の子どもを育てるように教員を育ててほしい。
- ▶働き方改革が求められている中、会議の精選、時間外勤務の縮減等を推奨されている。その中で、先輩から後輩への伝承等が薄れているように感じる。管理職のサポートと併せて、教職員の指導力の向上を促していけるような交流や対話の場の設定が大事だと思う。
- ▶働き方改革とか時間に制限がある中でも、教員と児童生徒・保護者等とのコミュニケーションは重要である。若手教員のコミュニケーション能力の向上は必須と感じる。
- ▶数年でタブレット授業の精度があがったことに驚いている。タブレットが学校で使用する道具の1つとなっても、子ども達の学ぶ姿を想定して効果的に活用されていかなければ、児童生徒の力は高まっていけない。実践を共有し取組を進めて欲しい。



清末 陽一 市教育長



岡本 天津男 県教育長

3. 意見交換を終えて

・ 清末 市教育長より

杵築市も「生きる力」を育む学校教育の充実を目指し、県の重点方針でもある「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上を踏まえつつ取組を進めている。教職員の資質向上と人材育成の支援は欠かすことのできないものと認識しており、本日の意見を参考にしながら今後も人材育成を行っていききたい。

・ 岡本 県教育長より

現場で校長先生や授業力向上アドバイザーがご苦労されていることを拝聴できた。今後もリーダーシップを発揮していただき、教職の仕事をおもしろい、続けたいと思っていただけるよう支援・助言いただきたい。県教委としても、市町村と連携しながら人材育成をしっかりと頑張っていきたい。